

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202081		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム大空 1F		
所在地	静岡県静岡市葵区古庄3丁目23-1		
自己評価作成日	H27年9月8日	評価結果市町村受理日	平成27年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosvoCd=2274202081-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年 10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出支援、利用者様が自分からしみたいと思えるホーム作り

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日午前と午後一人2回ずつ、仲よし同士や利用者ごとの歩ける力、体調に合わせてコースを選択して散歩を日課として体力維持、気分転換を図っています。事業所は提携医と訪問看護事業所との連携により24時間オンコール体制で医療、看護が充実し、薬局との連携で夜間の薬の購入も可能で、医療との連携が取れています。2日に1回の入浴を基本として心身の事情に応じ、毎日入浴をしている利用者もいます。8:30~17:00までを入浴時間とし、一人一人に湯を取り替え、入浴剤も好みに応じています。BCP(事業継続計画)に取り組み、災害時の地域住民の受け入れを検討中で、夜間の緊急時にも職員が対応できる体制にあります。職員は基本正社員採用で、安定した雇用条件のもと、心理的にも仕事に専念できる環境に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関内に掲示し職員はその理念を共有し実践できるよう、暗記、唱和等の指示がされている	理念は玄関に掲示し、職員には暗記・唱和の指示があり、毎月のカンファレンスの際に周知の確認と実践方法についてはパーソンセンタードケアとも照らし合わせながら、見直しをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園との交流の他、地域の催しに可能な範囲で参加する様にしている	事業所の両隣が元町内会長で大家と親族の家であり、両家から多くの協力を得て、町内会に参加し、日常的に近所の神社の清掃に参加している。1日2回の散歩により、空き巣狙いが軽減したと喜ばれている。4月に南側に保育園が新設され、園児との交流も始まった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員に置いては定期的な研修を通して、理解、実践しているが地域の人々に向けて活かされていないのが現状		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、話し合いの結果をサービスの向上に活かせるよう努めている	2か月に1回実施し、現在は家族と利用者の出席がないが、定年退職をした家族が出席してくれる予定になっている。開催日はその都度決めて家族にも連絡している。会議内容の多くは報告事項となっており、議事録は家族に配布していない。	地域の協力が得やすい条件にあるが、家族が参加しやすいための日程の工夫や会議内容の共有が図れるような取組に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは必要に応じて連絡を取る様に努めている	生活保護を引き受けているため生活支援課との連絡は多く、市からの要請で緊急の対応も行っている。身寄りのない利用者の在宅酸素の支援や看取り等では頻繁に連絡を取っている。介護保険課とは保険更新時の連絡が主となる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、職員にも周知徹底をし、玄関の施錠を含め、拘束に当たるような事例は発生していない	研修は座学以外に「体験研修」を主とし、職員は入居者の立場で、突然トイレのドアを開けられる、視覚障害の疑似体験で1日中アイマスクを着用する等を3か月に1度職員の希望内容で体験している。施錠は夜間の出入り口のみで、日中はセンサー音と見守りで対応している。	

静岡県(グループホーム大空 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的なホーム内研修の場において注意を促し、発生の防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や一部有資格職員は理解しているが全職員に徹底しているとは言えない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する案件については十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族から意見要望については、可能な限り、運営、業務に反映するよう努めている	意見箱は設置しているが利用されず、直接口頭での要望で、玄関に生花の飾り、掲示物への希望、家族に日常生活の様子をUSBにまとめる他、生活の様子を年1回の家族会で披露する等の対応により協力的な意見が増えた。法人へ直接アンケート等外部への機会はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティングや個別面談を通して意見や提案を聞く機会を設け業務に反映するよう努めている	職員には毎月の会議で提案できる機会を設けているが、管理者に言いやすい環境にあるため、会議を待たずに直接要望を言うことが多い。職員から残業体制の提案で管理者は低リスクと思われる内容には対応し、3カ月毎に10～15分の個人面談を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は規定にのっとり、職場環境、条件の整備に留意している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を受ける機会を計画的に確保し、自発的に希望する職員に対しても、積極的に行う様に行っている		

静岡県(グループホーム大空 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームに交換研修として職員を派遣する事がある		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーを中心に本人の要望や訴えを十分に把握する様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約に関する事柄は十分に家族に説明し、信頼関係を築き、協力、理解を得られるよう、努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先的なニーズの把握は重点を置いていない、その後のサービス提供に活かせるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する事を前提とし、調理や家事を共同で行う、職員間で意思の統一をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭り、家族会、クリスマス会などホームの催しに家族も参加するよう案内を出している、多くの御家族様が参加して下さい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前近所に住んでいたお友達や御家族様のお墓参りなど行っている	特定の入居者には友人の訪問がある。墓参りや馴染みの美容院の利用希望の入居者には職員や家族が同行支援をしている。入居年数が長くなると街中の繁華街などでは馴染みの場所の様子も変わり、わからなくなっていることも多い。	

静岡県(グループホーム大空 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	リビング内の座席配置については利用者同 士の関係性を考慮し必要に応じて仲立ちす るようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者の安否を含め、退去後も御家族様と の連絡を取っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	利用者のライフスタイルを尊重し、居室内は 自由に使ってもらい、本人の希望は可能な 限り聞くように努めている	入居時に本人と家族から得た情報で「できる こと・できないことノート」を作成して生活を組 み立てているが、入居生活を経てライフスタ イルが変わるため、カンファレンスで内容変 更を確認したり、申し送りノートに記載して職 員間で共有し、ノート確認は押印で表してい る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	過去の生活歴、職歴等を参考にし個別に対 応する様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	本人の出来る事を見つけ、身体の状態に合 わせた介護が出来る様、注意している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	定期的なケアカンファレンスを開催し、担当 職員、ケアマネ、管理者を中心に課題や方 向性を検討している	本人の思いや希望が丁寧に記載できるアセ スメントシートがあり、3か月毎に計画書を作 成する。全職員でモニタリングを行い、担当 職員が記載し、変更部分は赤字で記載さ れ、カンファレンスで計画内容は把握・共有 し、家族来所の時に説明しサインをもらって いる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関しては、介護記録委員会を中心に適 正な記録を残すよう、記入方法を含め、取り 組んでいる		

静岡県(グループホーム大空 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本位の観点に立ち、柔軟な個別ケアが提供出来る様、取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園との交流、ボランティアによる楽器の演奏、踊り等を実施している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年度より、静岡ホームクリニックと提携し、総合的な医療サービスを提供している	提携医の訪問診療で毎日2、3人の利用者が受診している。婦人科や眼科などの外部受診は家族が付き添い、不可能な場合は職員が有料で付添をし、薬局で薬も受け取り、必要な指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を通じて看護師から、指導、助言を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院として、済生会病院を指定しており、必要に応じて連絡を取っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び、終末期の見取りを家族と協議の上行った実績が多々ある	提携医と訪問看護其々と提携して24時間オンコール対応し、夜間もレントゲン撮影と薬局の対応が可能である。緊急時はホーム長と職員2名が対応体制で、職員には重度化、終末期には周りの入居者には影響しない対応を指導し、3回の看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や、事故発生時の対応については、ホーム内研修を実施している他、救命について消防隊員からの指導も受けている		

静岡県(グループホーム大空 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を地域消防と連携しおこなっている	年2回の地震、水害、火災訓練と地域防災訓練に参加し、避難訓練はタミー人間を用いて職員実施し、AEDを設置している。食料は1週間分備蓄されているが、地域住民の受け入れ対策で食料の増量を検討している。BCP(事業継続計画)対応も検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する声掛けに関しては日頃より注意し、ミーティングの議事としても取り上げている	呼びかけ方は利用者本人や家族の希望で『ちゃん呼び』の方はいるが、全般的に、認知症扱いはしなことに配慮をしている。トイレ誘導や尿取りパット交換のある方には誘導時の周囲への気遣い、声掛けに注意している。個室に鍵はあるが、施錠する利用者はいない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や不安を把握するために、傾聴する姿勢は日常的に指導されている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位という立場は折に触れ、指導されている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	適正な服装と手指の清潔衛生に関しては、職員が自発的に留意している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを工夫し、適量を守りながらも、おいしく食べられるよう利用者と共にキッチンに入る事を心掛けている	メニューは利用者と冷蔵庫の在庫品を視野に相談し、利用者一人を伴い車で買い物に行く。野菜の皮むき、包丁での刻み、味付け、テーブル拭き、食器の後片付け等男性も含めできること、好きな事に参加している。誕生会などには寿司とケーキの外注や外食もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理委員会を中心に衛生面も含め取り組んでいる、水分摂取量についてはチェック表に管理		

静岡県(グループホーム大空 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、声掛け、見守り、一部介助と利用者様の状態に合わせて対応している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	9/1現在おむつ着用者1名、夜間のみ着用2名、排せつ介助については個別に手順が決まっている	排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導している。入居時にリハビリパンツか布おむつと尿取りパットの併用への移行を職員全員で心がけてはいるが、無理せず、失敗は交換すれば良いとして、ユーモアを交えた言葉使用で、周囲に配慮して誘導、交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は、排泄チェック表を基に下剤の使用を含め個別にコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の要望や実状に合わせ概ね、2日に1回(身体的負荷軽減者は3日に1回)の周期で入浴を実施している、一部利用者に関しては職員2名で対応	2日に1回を基本とし、体調や疾患により3日に1回の利用者もあり、状況により毎日実施する場合もある。日曜以外は毎日8時30分～17時まで入浴が可能で、一人ひとりに湯を入れ替えて、好みの入浴剤を使用できる。入浴拒否の利用者には声かけの工夫で誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、休息は本人の意思で休みたいときに休んで頂いている。一部利用者は睡眠導入剤を使用している(Dr指示)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用意は協力薬局の薬剤師が行っている、服薬介助については誤薬の内容、日付、名前、錠数を提供する前に確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理の無い範囲で日常の調理や家事への参加を促している。他、個別に手芸や工作を提供している		

静岡県(グループホーム大空 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場は熱中症予防の為外出を控えていたが、買い物の同行、気分転換の為のドライブ、近場への散歩は継続して行っている	散歩は雨天以外は午前と午後に仲良し同士や、歩ける能力と体調によりコースを変えて3人位を1グループとして実施し、雨天はドライブで利用者の希望の所へ出掛ける。他、買い物や外食・催し物などへの参加に出かけている。利用者からの突然の希望にも対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	利用者様がもつ金銭については小銭に留め、物品購入の希望があった場合はなるべく本人同行に購入する様にしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は原則的に本人様にとりつくようにしている、手紙類もご本人様に渡しているb		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については催しの写真を掲示したり、利用者が作成した絵等を掲示している、また季節を感じられるよう装飾品を用意している	玄関には季節の花や写真、利用者の作品等がある。居間は常時照明を点灯し、明るさを維持し、2台のTVのチャンネル選択は自由で、DVDやカラオケも利用者が選べる。居間の畳コーナーで利用者の洗濯物たたみの参加や、庭で季節の野菜作りを支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様個々の座席の他、畳みスペースやソファが用意されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物品は一部介護用ベッドを除き、本人様持ち込みの物を使用して頂いている	テレビ、テーブルと椅子、筆筒や位牌、敷き畳などが持ち込まれ、塗り絵、ビーズ手芸の好きな利用者は手芸道具を置いている。衣替えは担当職員が整理を行い、買い替えは家族へ連絡して管理している。ラジオで深夜放送を聞くのも自由である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様によっては、居室扉に名札を貼っている、特に入居時には施設に慣れるよう、案内、説明を丁寧に行っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202081		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム大空 2F		
所在地	静岡県静岡市葵区古庄3丁目23-1		
自己評価作成日	H27年9月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosvoCd=2274202081-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年 10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出支援、利用者様が自分からしみたいと思えるホーム作り

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき地域との関わりを持ち良好な関係が保たれている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方からの行事等の誘いがあり、積極的に参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で活動報告をし地域の方にその活動内容を理解、協力して頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会等の行事予定を組み込み地域との関わりを取るようになっている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の協力もあり良好な関係性を築けていると思われる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない、玄関の施錠も行っていない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	心身、身体においてはもちろん、言葉の暴力についても注意を払い、研修も行っている		

静岡県(グループホーム大空 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームが建ってから、権利擁護、や成年後見人制度を使っている利用者様が居ない為、特別な研修などは行っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際の契約、締結は管理者のみが行っている為、家族に対しては十分な説明を行い、理解納得を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱が設置されているが、今まで1通も出されてはいない		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度程社長が来られ、社長を囲い意見交換を企画されている、職員からの要望については管理者会議などで発表をしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足が実態で有るが、その事は社長も把握しており、人員の補充を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は行っているが、リーダー各までのみの研修なので一般職員が受ける事は無い。一般職員はホーム内研修及び社内研修を受けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ会社内にある他ホームへの交換研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている、すべてとは言わないが、なるべく要望に応えられる様にし、心に安心を与えてくれるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	会議にて話し合ったり、管理者やリーダーの指示の元、考えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	100%とは言えないが、会議や職員同士話をし、見極めるようにはしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族とは行かないが、家族の様に考え過ごしている、まだ慣れていない利用者様も居るがその方ともそういう関係が築けると思う		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆は大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関係は途切れてないが、家族以外の人物や場所等は分かっていない		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なかなかコミュニケーションをとれない利用者様もいるが、職員が間に入り関わりをもつように努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も退去先に面会にいたり、御家族様から相談を受ける事がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	大体の事は把握している、本人の思いが分からない方もいるがその方の気持ちを考えて行動している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	多少把握はしているが、職員全員把握はしていないと思う		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を把握し、申し送る事によって全職員が把握をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、管理者、ケアマネと意見交換をし、意見を出し合いケアプランを作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアマネージャーからの教育も有り、記録にも記入し、情報の共有をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会議で話し合い、普段はユニットリーダーの指示の元、取り組んでいる		

静岡県(グループホーム大空 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元町内会、他施設との上場交換をし、興味の持てる事柄を探し、利用者様が楽しめるよう支援をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師との連携を密にし、各利用者様の情報を共有しつつ支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看のシートに各利用者様の情報を書き込み、情報の共有をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	現時点で入退院の業務にあたる事が無い為、出来ていないが、管理者、ケアマネジャーが行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	在宅医、訪問看護、御家族様との連携をしながら、見取りなど行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応の訓練は消防署の救急隊によって研修を受けている、年に2回行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路、災害時に必要な物品など用意し、全職員が物の場所を把握している。管理者がBCPの作成委員、中部地区の災害対策本部とりまとめの為地域との協力体制を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、プライバシーの確保はほぼ出来ている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の出来る方にはなるべくご自身で決定して頂くように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現状では、職員の都合が優先されてしまう事も有るが、努力をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合う服装を選んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員と一緒に、準備や片付けを行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や水分量の確保は出来ている、栄養バランスも栄養委員会の指示の元行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアはその方に合わせ行っている、口臭が強い方や、虫歯、義歯の不具合の有る方は訪問歯科にて治療を受けている		

静岡県(グループホーム大空 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほぼ出来ている、時間を見て、職員同士声掛けを行いながら、トイレ誘導を行っています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルトやバナナなど排便を促す食材を使用している、毎日ラジオ体操、散歩などで体を動かして頂き、それでも排便の見られない方は医師の指示の元排便コントロールをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望が有る方については添うようにしていますが、拒否の有る方については清潔保持の為、気持ち良くは入浴されていません。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたいと訴えが有れば休んで頂いています、特に身体に影響が無ければ本人の意思に合わせています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在は在宅指導管理により、薬剤師が薬のセットを行っております、薬の変更とうあった際は申し送りにて全職員に通達しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何か任せたい、仕事をしたいと言う方も居る為、得意分野で力を発揮できるように支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩等は希望が有れば1日に何回でも希望に添う事が出来ますが、金銭的な理由やその日の職員によって、当日の訴えについては出来ていない事もある		

静岡県(グループホーム大空 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方については支援をしています、その方についてはこのお金で何かをкаいたたいという訴えが添うようにしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと訴えが有ればかけています、月に1度御家族にお手紙を書く機会があるので皆様お手紙を書いています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が使いやすい様、分かりやすい様になっています、季節感が出るよう、掲示物などを飾っています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士、近くの席にしたり、一人になりたければ居室に行く事が出来ます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に御家族様などと相談し居心地よく過ごされる様に居室づくりをしています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を出来る様、工夫していますがレベルが落ちて行く事が多いので、安全に生活出来る様に支援して行く事が重点を置いています		